



# 風の子

糸魚川市立木浦小学校

H30 学校だより No.15

平成 30 年 12 月 21 日 発行



スイセン咲く

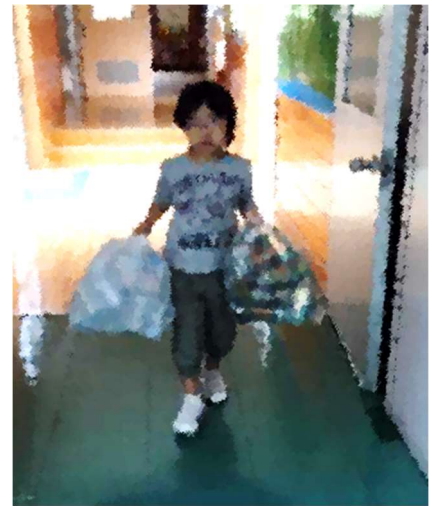
## 2学期の子どもたちの成長 保護者、地域の皆様に支えられて

富永 浩文

学校の入り口に立つ二人の風の子像（勝手にそう呼んでいます）。突き上げる拳の先の空は鉛色で、湿気をたっぷり含んだ雲が空気をぎゅっと押しつぶし、重く垂れ込めます。海から吹き上げる冷たい季節風が、木々の梢や電線を揺らしてピューピューと虎落（もがり）笛を鳴らし、うねるように子どもたちの小さい体をもて遊んで吹き抜けていきます。

\*\*\*\*\*

今日は12月21日（金）2学期の終業の日です。寒い冬の日でも、子どもたちは元気に登校してきました。正に、グラウンドに掲げられている「木浦 風の子 元気な子！」がぴったりです。2学期79日間の内、65日が無欠席（20人全員登校）でした。2学期は、寒暖の差が激しく、学期末に向かって体調を崩しやすい気候となりましたが、子どもたちは大きな病気やけがもなく登校してきました。そして、子どもたちは色々なことでがんばり、力を付け、成長しました。



朝の仕事空き缶回収

1, 2年生は、何と言ってもウサギのゴップの飼育をがんばりましたね。朝登校して、すぐに空き缶回収の仕事がんばりました。えさのお金を稼ぐために仕事をしました。ゴップの飼育は、掃除や水、えさやり、散歩と、休み時間もかかわりました。とても立派でした。その他、足し算や引き算、九九などの学習でも、力を付けているのが分かりました。



サケの卵の観察

3, 4年生は、木浦すてき探検隊で地域の自然や文化、人とたくさんかかわりました。その成果をまとめた発表は、文化祭で大爆笑、大喝采を浴びました。さらに、ジオパーク学習交流集会でも、広いステージをいっぱいに使って、胸を張って、自信をもって発表していました。会場にいる人たちから、感嘆の声や手拍子などが自然に起こりました。サケの採卵・授精、飼育もがんばっていますね。



パネルディスカッションの学習

5, 6年生は、2学期も学校のリーダー、代表として、学校内外で活躍しました。陸上大会では、当校児童の力強い選手宣誓を皮切りに、全員がベスト記録を更新しました。特に男子リレーでは、6年生男子4人で6位入賞を果たしました。音楽発表会やいじめ見逃しゼロ集会でも、代表として自覚をもって、堂々と発表していました。国語の話し合い活動では、理由や例を挙げてわかりやすく説明したり、友達の意見を大切にしながら自分の意見を話したりする力がつきましたね。

その他、私には感動した場面が二つあります。一つは、マラソン大会です。誰一人途中で歩くことなく、それぞれの目標に向かって走り抜き、ベストタイムでゴールしました。その姿に感動しました。もう一つは、木浦ふれあいコンサートの歌です。地域の音楽家の方と練習して歌った「つなごう」と「それ行け木浦探検隊」。一人ひとりの声がまとまり、そのパワーは体育館を揺らすほどでした。その歌声に感動しました。

このように子どもたちの成長をたくさん感じた2学期でした。いよいよ冬休み。最近のはやり言葉で言うと、平成最後の冬休みです。事故なく、病気なく、トラブルなくすごしてください。1月の始業は8日(火)です。それでは良いお年を。



主役の座をおります

\*\*\*\*\*

2学期も、保護者、地域の皆様から、子どもたちの成長を温かく見守り、指導、支援をいただきました。本当にありがとうございました。皆様にとって、来る年が幸いに満ちたものがありますように。

### 3回目の空き缶を買い取っていただきました。12月18日(火)

2学期も保護者や地域の皆様からご協力いただいて、たくさんの空き缶を回収してきました。

18日の昼休みに、機械室の空きスペースに蓄えていた空き缶を、ツカダ運輸様より引き取っていただきました。みんなで機械室から渡り廊下の出口まで一列に並んで、息を合わせて手渡しで空き缶を運び出しました。

山のように積み上げられた空き缶が、全員の力によってみるみるうちに減っていきました。数は力。

今回は何キロになるのでしょうか。後日また結果をお知らせいたします。



手渡しで空き缶を運び出す



## ウサギのゴッフとお別れをしました。 12月18日(火)

### 卒業式

お別れの言葉  
(ありがとう ゴッフ)



卒業証書授与 (卒業を証明します)  
8 4 日間元気に過ごしました



プレゼント (キャベツとにんじん)  
食欲は旺盛 ちょっとメタボ

## 手袋をはずした手は あったかい

毎朝、玄関や校門に立って、子どもたちを迎えます。寒くても握手をしたり、タッチをしたりして、一人ひとりとあいさつ。気持ちの良い瞬間です。緊禪一番 (きんこんいちばん) 「今日もがんばろう。」と気合いが入ります。

ところで、最近毎日うれしいことがあります。それは、次のようなことです。

寒くなるとほとんどの子どもたちは朝手袋をしてきます。これは、ポケットに手を入れないように、もしもの時に手が出るようにするために必要なことです。色々な手袋の手があって、感触がとても楽しく感じられます。ところが、その子は私の近くまで来ると、さっと手袋をはずして片手に持ちます。そして、はずした手でタッチしたり、握手したりするのです。

私は驚きました。握手するのに手袋のままでも何ら問題ありません。私はその子の立場だったら、果たして手袋をはずすでしょうか。いやはずさないで手袋のままだと思います。しかしその子は、普通にそうするのです。

その子の礼儀正しさ、優しさなのかもしれませんが、とても心が温まり、幸せな気持ちになります。同時に、何か申し訳なさも感じます。私は、子どもの後ろにあるご家庭や地域の温もりを感じ、頭が下がる思いがします。雪国の風土や文化は、体の芯まで凍り付きそうな冬でも、一瞬で温めるやさしい心を伝えてくれているのですね。有難いです。

そう言えば、童話作家杉みき子さんの作品「雪の一本道」に、こんな一節があります。「雪の一本道で人と人が出会ったら、どちらかが道をゆずるのがこの雪国のならわしなのです。」経験のある方は分かると思います。昔は、雪が降ると雪踏みをして道を作りました。すれ違うことができない細い道です。鉢合わせになったら、お互い付度し合っって新雪の中によけ、道をゆずったのです。このようなところに、雪国ならではの温かい思いやり、心の通い合いが生まれたのですね。

